

# 令和6年 新春トップ会談



山口市は「湯田温泉パーク共創プロジェクト」、山口商工会議所は「レノファ山口FC応援プロジェクト」を立ち上げるなど、レノファ山口FC（以下「レノファ」）を通じて、まちを盛り上げる取組を推進しています。今回は「レノファとともに取り組む地域・経済の活性化」と題し、トップ会談を行いました。

◇出席者

伊藤 和貴（山口市長）

小山 文彦（株式会社レノファ山口 代表取締役会長）

河野 康志（山口商工会議所 会頭）

中川 孝（山口商工会議所 専務理事）

**（中川専務）** 新年あけましておめでとうございます。本日は、「レノファとともに取り組む地域・経済の活性化」と題し、皆様にお話を伺っていきたいと思います。まず、2023年を振り返っていかがでしたでしょうか。

**（伊藤市長）** 新年あけましておめでとうございます。本市では、レノファのJ1昇格に向けて全市を挙げてサポートするとともに、様々な形で、レノファと連携した

地域の活性化に向けた取組を進めています。

昨年は、7月22日の「山口市ホームタウンデー」からホームゲーム3試合において、選手の皆さんに「山口七夕ちようちんまつり」とコラボレーションしたちようちんデザインの限定ユニホームを着用していただく中で、600年の歴史をもつ「山口七夕ちようちんまつり」を全国に発信し、大いに盛り上げていただいたところです。



ちようちんデザインの限定ユニホームを着用した選手

また、現在、レノファと連携し、湯田温泉パークを活用して湯田温泉の賑わいの創出を目指す「湯田温泉パーク共創プロジェクト」を推進しています。

昨年度は、レノファの持つ企業等とのネットワークや発信力などを活用し、湯田中学校の生徒が企画・運営するレノファのアウェイ戦のパブリックビューイングを始め、ホームゲームにおいては、山口大学の学生を中心に湯田温泉の新たな特産品として開発したコーヒー牛乳の販売や、足湯に浸かりながら試合を観戦する足湯シートプロジェクトの試験的な実施など、若者の参加による湯田温泉の活性化の取組を展開しました。



試験実施した足湯シートプロジェクトの様子

このように、昨年はレノファとの連携による地域の活性化に向けた具体的な取組を通じて、改めて、レノファをハブとしたまちづくりの可能性を感じた年となったと考えています。

**(小山会長)** 新年あけましておめでとうございます。2023年のレノファは、明治安田生命J2リーグで20位という結果に終わりました。J3降格圏にいた期間も長く、積極性が見られない試合展開や、肝心のシュートが枠内に飛ばず、みなさんの期待を裏切ってしまったものと思います。

2年前に私が就任して以降も、成績の観点ではなかなかトンネルを抜け出せないように映っているかと思えます。一方で、クラブは消滅の危機を無事回避し、非効率な支出を見直し、選手等にかかるチーム人件費を少しずつ増加させ、アカデミーの体制を整えるなど、着実に後退から発展へと切り替わっているものと確信しています。



湯田中学校の生徒が企画・運営したパブリックビューイング

昨年に関しては、山口市、山口商工会議所との取組が始まったのが進展かと思えます。湯田温泉パーク共創プロジェクトでは、湯田温泉地域でのパブリックビューイングや東京でのワークショップを実施しました。

山口商工会議所とのレノファ山口FC応援プロジェクトでは、企画第一弾として開催した「キックオフシンポジウム『プロサッカーチームによる地域活性化～ホームゲームを盛り上げてJ1へ～』」で、元サッカー日本代表FW（フォワード）の大久保嘉人さんをお呼びいただき、楽しいトークショーが催されました。同日に行われた試合では、サッカー日本一を決める天皇杯（2022年）で王者となったヴァンフォーレ甲府を相手に3得点で勝ち切る事ができました。

**(河野会頭)** 新年あけましておめでとうございます。昨年は、レノファとの協力関係を築き始めた1年でした。小山会長のお話にもありましたが、6月にレノファと山口商工会議所で共同記者会見を開き、レノファのJ1昇格を目指して相互に最大限の協力を図ることなどを宣言したことを皮切りに、レノファ山口FC応援プロジェクトの實質的なスタートを切る事ができました。



(株)レノファ山口・山口商工会議所で共同記者会見を開催

山口観光コンベンション協会や湯田温泉旅館協同組合など11団体が構成される会議体（レノファ山口FC応援プロジェクト会議）を組織し、ホームグラウンドの観客増員やプロサッカーチームによる地域活性化への支援策の立案・実施を目指すこととしています。

最初に企画・実施したキックオフシンポジウムでは伊藤市長、小山会長、同会議の大庭委員長と握手を交わし、レノファを通じた連携の大切さを感じました。

そして、元サッカー日本代表の大久保嘉人さんと、元サッカー日本代表・元レノファ山口FC選手で同プロジェ



キックオフシンポジウムで関係団体トップと握手を交わした

クトのアドバイザーに就いていただいている坪井慶介さんとの対談では、J1チームの多くのサポーターはアウェイ戦でも応援に来てくれるため、試合観戦に併せて食事や宿泊をしてもらうことができ、経済効果があるとお話されていました。

引き続き、レノファと協力しながら地域・経済の活性化に取組、経済界が一丸となってJ1昇格に向けた動きを盛り上げていきたいと考えています。

**(中川専務)** 続いて、地域全体でレノファを盛り上げるに当たって、今後こういった取組が必要になると考えておられますか。

**(伊藤市長)** オール山口で盛り上げることが大切であると考えており、まずはホームゲームでの観客数を増やす取組を市としても引き続き協力してまいりたいと考えております。今年の平均観客数は4,400人余りとなっており、まだコロナ前の6,000人台まで戻っていないと伺っています。

観客数の増加には、選手が地域と関わり、ファンとの交流の機会を増やしていくことが効果も大きいと考えておりまして、サッカー教室やホームゲーム開催時の取組だけでなく、地域や学校の行事へ積極的に参加していただくことなども、市民の皆様にはスタジアムに足を運んでもらうためのきっかけづくりとして考えられます。

特に、次世代を担う子供たちが、レノファに興味を持ち、スポーツを好きになるきっかけとなるよう、選手との交流の場づくりをレノファの皆さんと連携して取り組んでいけば、それが、レノファの目指しておられるホームゲーム観客数1万人に繋がっていくと考えています。



伊藤市長

**(小山会長)** 私たちは地域にサッカー文化が根付くことが大切だと思います。山口の場合、Jリーグのクラブが誕生してからサッカーを応援する機会ができた方が多いと思いますが、試合結果やリーグ順位だけでなく、90分の中にあるプレーを語るようになれると良いなと思います。誰がどんなプレーをして、どうなったかを味わえる地域になれば面白いですね。

そのためにも、伊藤市長が地域とのかかわりやファンとの交流の機会を増やすことが効果的と話されていたよ

うに、選手に会える機会は多くして、Jリーグ社会連携、通称シャレンの取組は増やしていきたい。

クラブ自体もこれまで選手を神聖視してきたきらいがあり、試合のために無理をさせないように考えすぎているところがありますが、選手側は地域の方々と触れ合いたい気持ちや、それが自身を奮い立たせる面もあります。

川崎フロンターレや横浜FCなど、神奈川県ではどのクラブもかなり積極的にシャレン活動や学校訪問を行なっていますので、山口でもスケジュールには配慮しながら、機会増を進めていきたいと思えます。それをきっかけに、ホームスタジアムへの来場者数が増えればうれしいですし、交通や駐車場の問題はクラブではなかなか解決できませんので、まずはサッカーを生活の一部に取り込み、サッカーを楽しむために、地上波放送を増やしたり、昨年から積極展開しているパブリックビューイングの輪をさらに広げていければと考えています。

**(河野会頭)** 伊藤市長や小山会長と同意見ですが、地域全体でレノファを盛り上げるには、ホームスタジアムでの観客動員数を増やし、多くの方に試合を見ていただく、またはレノファと触れ合っていただく機会をつくるのが重要だと考えます。そのためには様々な取組が必要になると思われませんが、山口商工会議所としてはレノファ山口FC応援プロジェクトを通じて各団体との連携強化を図ることで、観客増員に向けた関係各所への協力要請を行うことが可能であると考えています。



河野会頭

協力要請を実現させた一例として、レノファとともに地域経済のさらなる活性化に取り組むため、この度山口県と山口市に要望書を提出しました。サポーターの皆さんがスタジアム観戦に行きやすいよう、ホームゲーム開催時における



レノファ山口FC 応援促進について山口市へ要望

来場者の交通アクセスの利便性向上に向けた取組が必要だと考え、維新公園内の駐車場の開放や、試合開催時間に合わせたJR山口線の車両編成などを盛り込みました。

今後もレノファや山口市とも協議を重ねながら、よりよくなる手段を模索していきたいです。

**(中川専務)** それでは最後に、2024年に取組たいことや、それぞれの夢をお聞かせください。

**(伊藤市長)** レノファでは、山口県全体を盛り上げ、「Jリーグで地方創生、まちづくり」の促進に向け、選手が担当制で県や市町ごとのPRや応援といった社会連携活動を行っていく「ご当地シャレン選手」を選定されています。まずは山口市のシャレン選手をもっと身近に感じていただきたい。それが観客数の増加につながっていくものと考えています。

また、引き続き、レノファと連携して、維新みらいふスタジアムにほど近い湯田温泉の立地を生かし、「湯田温泉パーク共創プロジェクト」を推進するとともに、現在、市内21地域のそれぞれの個性を生かしたご当地レノ丸の作成を進めており、こうした取組を通じて、市内全地域でレノファを盛り立てていきたいと考えています。

こうした中、昨年着工した湯田温泉パークがいよいよ来年春から供用を開始いたします。この湯田温泉パークの最大の特徴である全天候型の大屋根広場には大型LEDディスプレイを備え、レノファのアウェイ戦のPaprickビューイングを実施する予定です。

ホームゲームでは、維新みらいふスタジアムが多くのサポーターでオレンジ色に染まりますが、アウェイ戦では、湯田温泉パークを多くの市民やサポーターでオレンジ色に染め、レノファのJ1昇格を後押しし、こうした勢いをまちづくりや地域活性化にもつなげていきたいと考えています。

**(小山会長)** 2024シーズンはJ2から3チームが降格する厳しいシーズンとなります。事業規模はJクラブ全体で34番目。J2で14位にあたる予算が動いていますので、まずはその順位に着地することが重要かと思います。渡部社長は2年目を迎えますし、強化部も体制が充実し、チーム編成を論理的に進めるようになりましたので、この数年でJクラブらしさがさらに高まっていくと思います。



小山会長

U18も着実に力を着けており、今年は山口市立白石中学校出身のFW末永透瑛選手がデビューします。いつかJ1昇格を夢見て、J2で着実に上昇していくために、クラブの弱点を潰していくことが重要です。地域との触れ合いを大切に、より多くの山口市民から応援していただけるチームを目指すこと。山口市や山口商工会議所と連携しながら、レノファを通してもっと地域活性化、経済活性化に寄与していけると考えています。



試合を盛り上げるサポーター

**(河野会頭)** 昨年開催したキックオフシンポジウムでサッカー元日本代表の選手が話していたように、J1昇格による経済効果は非常に大きいです。山口経済研究所は、レノファがJ1に昇格した際のホームゲーム来場者消費による山口県への経済波及効果は年9億円から22億円と、約2.4倍になると試算しています。

レノファ山口FC応援プロジェクトを通じて、ホームゲームの観客数増加や、市民サポーターの実態調査、J1昇格に向けた環境整備など経済界からサポートできることを検討しながらJ1昇格への動きを後押しし、引き続き地域経済の活性化に取り組んでいきたいと思っています。

2024年2月から新シーズンが始まりますが、同プロジェクトでは、それに合わせた開幕イベントも準備中です。多くの皆様に参加していただくと幸いです。

スタジアムで実際に試合観戦し、手に汗握る試合展開の中で選手の皆さんを応援していると、心のもやもやが晴れる時があります。そんな時が私にとって、プロサッカーチームが山口市にあって良かったと思う瞬間です。地域の方をはじめ、できるだけ多くの方にこの感覚を味わってほしいなと思います。

本年もレノファとともに、地域・経済の活性化に尽力します。

**(中川専務)** 皆様、ありがとうございました。今後も山口市やレノファと連携を深め、地域や経済の活性化に取り組んでいければと思います。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。